

議会のレポート

議員研修会・県内事務調査

5月15日、町村議会議員研修会が鹿児島市の「ウエルビユーかごしま」で開催され、16日は県内事務調査で南薩土地改良区の南薩畑地かんがい事業の研修を行いました。

議員研修会は、県下の町村議会議員が出席し、3人の講師による講演が行われました。

はじめに元自治事務次官で地方公務員共済組合連合会理事長の松本英昭氏による『地方自治をめぐる最近の動向



ユーモアを交え元気の出る話をされる樋口恵子氏

について」と題しての講演が行われ、三位一体改革の総括、地方分権改革推進委員会における審議の内容等を踏まえ、地方の自主性・自立性については、国と地方の共通理解と認識が必要であると話されました。

東京都家政大学名誉教授・評論家の樋口恵子氏は「少子化と高齢社会」と題して、長寿国・日本の抱える高齢者問題、マイナスな面ばかりが取り上げられるが、今の子ども達は、「人生八十年の設計」ではなく、「人生百年の設計」となる。私たちは、社会に貢献できるお年寄りとして、社会的発明をしていかなければならないと話されました。

鹿児島県農政部長の弓指博昭氏は、「鹿児島県の農業の可能性」と題して、鹿児島県の農業の特徴、全国での農業の地位等を話され、本県の取り組み「食と農の先進県」づくりの施策（担い手づくり・産地づくり・食育/地産地消・安心/安全農林水産業先進県）についての説明がありました。

翌日16日の県内事務調査は、南九州市額姪町にある南薩土地改良区において、畑地かんがい事業概要の説明と茶団地と揚水機場の現地視察を行いました。



額姪の茶団地を視察

この畑地かんがいは、池田湖流域外の3河川から池田湖に河川水を導き年間3千万トンのかんがい揚水を確保、各団地の調整水槽、ファームポンドに揚水されている。

主な作物は、加工用サツマイモ、茶、カボチャ、オクラ、ソラマメ、食用サツマイモ、大根、バレイシヨ、ニンジン、キャベツ、レタス、花木、果樹等多岐にわたっており、畑地かんがいの水利用により平成18年10月現在で、一戸当りの生産農業所得が、かんがい地域の市町すべて県内で一位から六位に入っているとの事でした。

産業建設委員、

和牛部会と意見交換会

石油高騰により牛の配合飼料が高くなり、畜産農家においては、厳しい状況におかれています中、議会も畜産に関する勉強をしようという目的で、産業建設委員会（杵山正木委員長他4名）と畜産振興協議会役員15名が「あすばる大崎」の会議室において意見交換会を開催、次のような意見や要望が出されました。

① 配合飼料の高騰は、全国的な問題であり、当分続くと思われるので、転作田で飼料稲作付けの推進をすべきでは。

② 肥育農家が成り立っていかないことには、子牛価格が良くなることはなく、国も肥育農家に対しての対策を考えるべきである。

③ 畜産農家も経営面をもっと勉強し、10月オープン農業関係機関窓口のワンフロア化の中で経営面についての指導もお願いしたい。

本町の畜産振興を図っていくためには、担当課や関係機関だけでなく、議員も勉強し、一体となって取り組んでいかなければならない。今後もこの会を継続することになりました。